

りんご生育情報(10月号)

令和7年10月21日発行

【発行】宮城県登米農業改良普及センター

電話 0220-22-6127

HP <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-n/>

普及センターのホームページでは、過去の技術情報も掲載しています。お手持ちのスマートフォンなどで右のQRコードを読み取るとホームページへ移動できますので、ご利用ください。



1. 果実肥大状況

10月10日現在の「ふじ」の果実肥大状況は、タテ径 75.4mm（平年比 97%）、ヨコ径 84mm（平年比 98%）と概ね平年並となっています。

表1 果実肥大調査結果（mm）

	タテ径	ヨコ径
本年	75.4	84.0
平年値	77.8	85.5
平年比	97%	98%

※東和町の測定値。

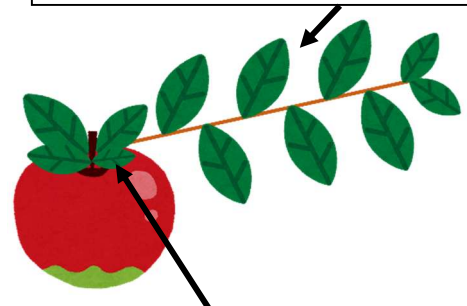
3. 「ふじ」の着色管理について

「ふじ」の着色管理の適期です。作業が遅れないよう計画的に実施しましょう。

🍎 葉つみ

- ・「ふじ」は収穫 30～40 日前から開始します。
- ・葉つみは収穫までに2回程度に分けて実施します。
 - 1回目：果実に直接ついた葉を中心に除去
 - 2回目：光が十分当たるように果実周囲の葉を除去
- ・葉つみが早すぎたり、強すぎたりすると糖度の上昇が妨げられ、着色が不良になるうえ食味を低下させるので、注意しましょう。

副梢葉・新梢葉はできるだけとらない



果そう葉を中心に日陰になっている部分のみを葉つみする

🍎 玉まわし

- ・果実が 30%程度着色 したら1回目を実施し、その後葉つみと合わせて2回目を行うとよいでしょう。
- ・日焼け果の発生を助長しないよう、果実温の高いときに実施しましょう。

🍎 反射シートの利用

- ・反射シートは収穫前 30 日ごろから敷きます。
- ・一時的に園全体に反射シートを敷くと、日焼けが発生することがあるので、最初の 10 日程度は樹間に敷き、その後樹冠内に移動する方法が望ましいです。
- ・着色が進んでも味が伴わない場合が多いので、十分味をのせてから収穫しましょう。

🍎 秋の農作業安全確認運動実施中 🍎 (9月1日～11月30日)

～スローガン「徹底しよう！農業機械の転落・転倒対策」～

- ◆シートベルト、ヘルメット着用の徹底！
- ◆危険個所では原則、迂回を！





3. トピックス ～ 鳥害対策について ～

日本で記録されている約 600 種の鳥のうち、農作物を加害するのは 20 種ほどです。
特に果樹を加害する種としては、カラス類、ヒヨドリ等が挙げられます。今年も当管内の一部地域ではカラス等による被害が確認されていますので、ご注意ください。

食害する鳥類の特徴

種名	全長	形態と行動の特徴	食性	生息環境
ハシブトガラス	56cm	全身黒色で、嘴は太く、上嘴は湾曲している。 「カア カア」など澄んだ声で鳴くが、濁った声も出す。	雑食性 (動物の死骸や人の残飯、昆虫や種子、果実、鳥の卵やひな等)	市街・地や林のような立体的な環境を好む
ハシボソガラス	50cm	嘴はハシブトガラスより細く、湾曲は少ない。 「ガァァ ガァァ」と濁った声を出す。		農耕地など平面的な環境を好む
ヒヨドリ	28cm	ムクドリと混同されることがあるが、ムクドリより灰色みが強く、尾が長い。ムクドリより樹上で過ごすことが多い。 大きな声で「ピーヨ、ピーヨ」「ピーッ、ピーッ」と鳴く。	昆虫と果実を主に食べる。 甘いものを好み、花や蜜、樹木の新芽、葉野菜なども食べる。	木のあるところなら市街地から山地のいたるところに生息している。

農家単位でできる対策方法について

1) 防鳥網

防鳥網で作物を覆うのが最も確実な被害防止対策です。

防鳥網は、カラスは 75 mm 以下、ヒヨドリやムクドリは 30 mm、スズメは 20 mm 以下（可能なら 19 mm 以下）の網を使用するのが望ましいです。

また、農研機構では、果樹園のカラス対策「くぐれんテグス君」、その簡易改良型「くぐれんテグスちゃん」や、防鳥網の簡易設置「らくらく設置 3.5」などの対策技術が開発されています。下記 HP から様々な対策技術が検索できますので、ご覧ください。

(<https://www.naro.affrc.go.jp/org/narc/chougai/>)

2) 追い払い道具類

吹き流しや CD、市販の各種防鳥機器、カラスの死体をつるすなどの方法は、一時的には効果がありますが、鳥にとって実害をもたらさないため、日数の経過とともに慣れて効果がなくなります。

カラスでは、見慣れない物や普段と違う状況に対する警戒心が他の鳥以上に強い場合もあるため、工夫して使えば追い払い道具も有用な場合があります。具体的には、追い払い道具は要防除期間のみに設置し、期間終了後はただちに片づけること、道具の種類や設置位置、組み合わせなどを頻繁に変えることで、常にカラスに「ここは変だぞ」と思わせておく工夫が大切になります。

参考：「鳥類の生態と被害対策-カラスとヒヨドリを中心に-・2024」（農研機構）

